

教育ゼミ B班

秦和輝 徳田心優

平野美琴 後藤大輝

幼少期の英語教育のあり方

設定理由

近年、日本では**グローバル化**が進むにつれて、英語教育に力が入られている。英語教育の導入が早まっているのも事実だ。私たちB班は幼少期の英語教育について反対派が多く、賛成派の意見や、なぜ国が学習要領を下げているのか疑問に思った。

そこで、これからの英語教育がどうあるべきかを調べることにした。

ここでの「幼少期」は未就学児を指すこととします。

反対派の意見（班員の意見）

- 日本語から先にすべきなのではないか
- 幼少期から英語教育をすることによって英語嫌いになるのではないのか
- 幼少期から始めるのは早すぎるのでは？
(定着できない・日常生活から先に習得すべき)

書籍の意見

賛成派

- あえて母国語ではない言葉を使うことで母語・言語を意識させることができる
- 「教科としての英語」ではなく「コミュニケーションツールの英語」として活動することで英語に対しての壁をなくすことができる

出典 直山木綿子『なぜ、今小学校で外国語を学ぶのか』
小学館.2019

反対派

- ALTの教員を採用しても大きな教育効果が期待できない。
- 日本では英語を話せなければならぬ機会が少なく、使えなくても困ることはほとんどない。

出典 寺島隆吉 『英語教育原論』 明石書店.2007

学校法人 道德学園 のだ山幼稚園

先生紹介

- 教務主任 牧 紗千子 先生
- 英語主任 若松 麻弥 先生





教育理念

- 国際感覚豊かな人材を
育てる
- 英語はあくまでコミュニケーションツール
ーその先にある楽しさを！ー

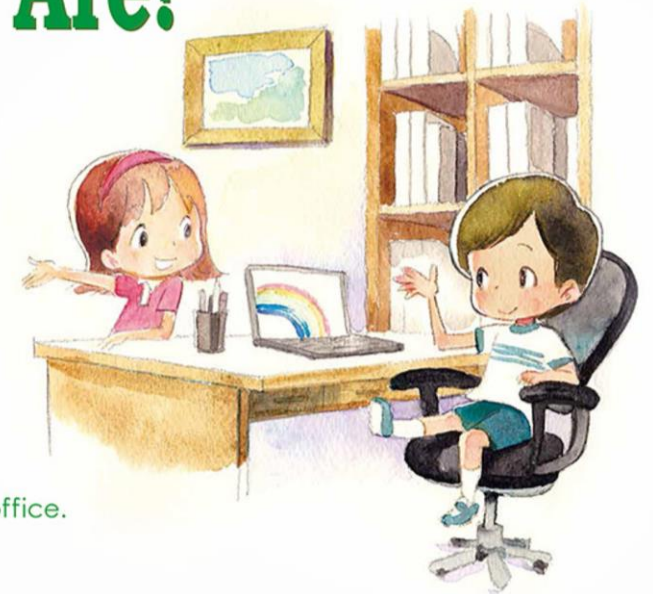
教材

- ➡ Grape SEEDという会社の方針にのっとして教育を行っている



Yes, They Are!

Where are they?
Are they in the yard?
No, they aren't. They are not!
Are they in the office?
Yes, they are! They are in the office.





Yes, I Am!

What are you? Are you a grape?

No, I'm not. I am not.

Are you a banana?

Yes, I am. I am a banana!

What are you? Are you a bean?

No, I'm not. I am not.

Are you a cucumber?

Yes, I am. I am a cucumber!



Yes, They Are!

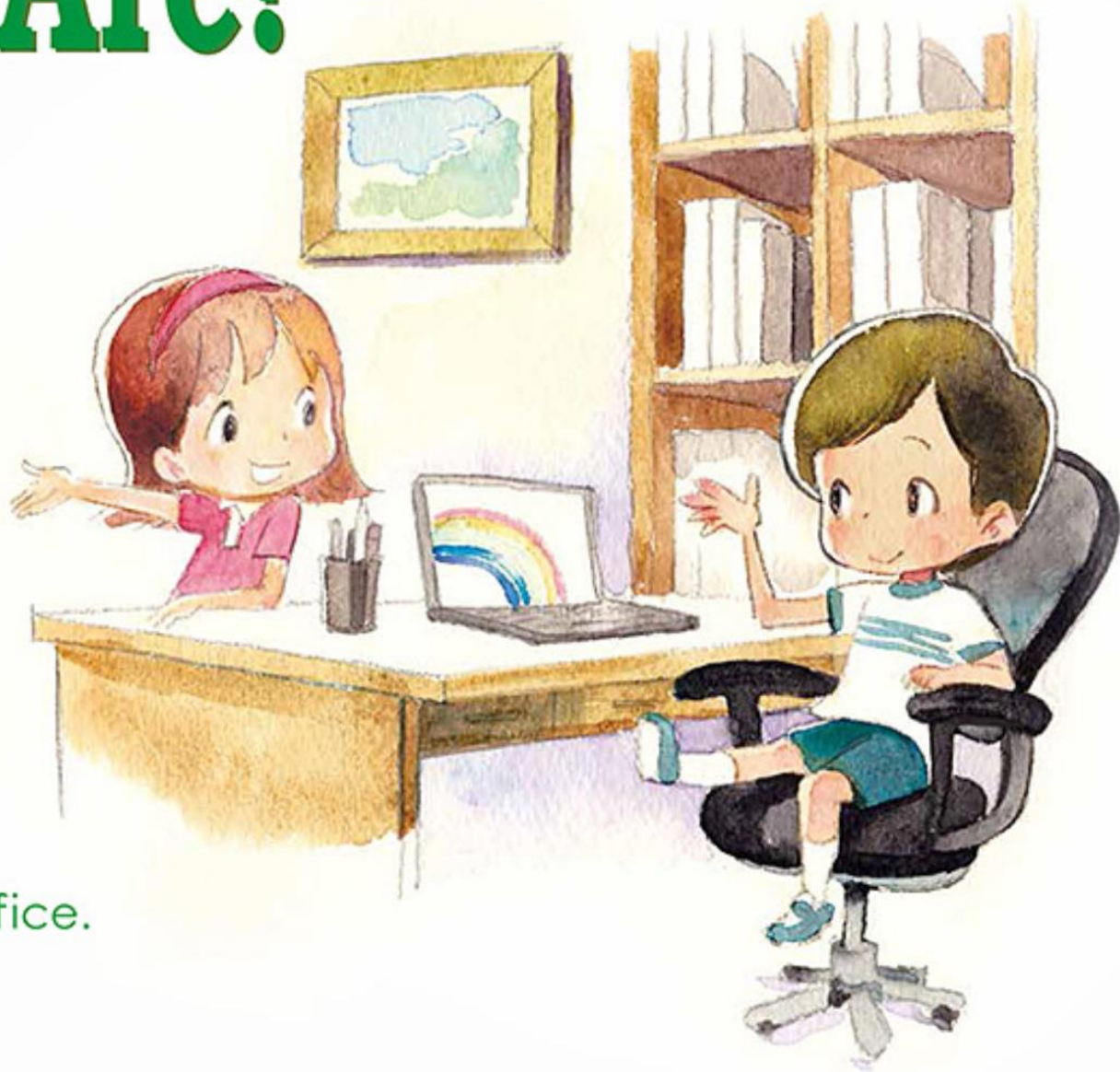
Where are they?

Are they in the yard?

No, they aren't. They are not!

Are they in the office?

Yes, they are! They are in the office.



授業見学中の気づき

- 何人か乗り気じゃない人に対して
1人1人さりげなくサポートすることで
だんだん乗り気になっていた
- クラスごとの好みや興味によって
毎年授業内容を変えている
- ポイント制を取り入れて、集中力を上げていた

効果

- コミュニケーション力がつく
- 海外の人や文化と接する時に躊躇しなくなる
- 発音がよくなる
- 中学の英語に入りやすくなる
- 特にリスニングが得意になる

インタビュー結果（質疑応答）

質問

1. 英語コースをつくった理由
2. 英語教育をする際の工夫
3. 英語が嫌いになる子にどう接するか
4. ALTがいることの利点

回答

1. 幼少期から豊かな国際感覚を身につけ、コミュニケーションツールとしての英語を身につける。
2. 生徒の間違いを否定せずに認め、好奇心を育てる。生徒への無理強いはいしない。
3. 英語への好奇心を高め、強制的には教えない。
4. 多国籍の先生がローテーションするため、いろんな文化を知れる。また、外国人に対して親しみを自然ともてる。

反対派の意見に対する回答

反対派の意見

1. 日本語から先にすべきなのではないか
2. 幼少期から英語教育をすることによって英語嫌いになるのではないのか
3. 幼少期から始めるのは早すぎるのでは？

回答

1. のだ山幼稚園では、年中から英語教育を始めており、それまでに日本語を定着させる。
2. 英語嫌いになる生徒もいるが、自発的に学習することを目的としているため、無理に参加させたりはしない。
3. 幼少期から始めることで、英語への抵抗をなくし、コミュニケーションの楽しさを感じることができるため、有効である。

インタビューまとめ


- 意欲的に、自発的に！
- 間違いは指摘するのではなく、示して修正させる
- 「学ぶ」のではなくコミュニケーションツールとして「楽しむ」！

結論

指導者は

- 英語はあくまでもコミュニケーションツールとして使用し、英語へのハードルを下げて異文化への理解を深める
- 幼少期の子どもが自発的・意欲的に英語を楽しむために、子どもの興味に沿って身近なものに関連付ける

という英語教育を実践すべきだ。



出典

- ・ 寺島隆吉 『英語教育原論』 明石書店.2007
- ・ 直山木綿子 『なぜ、今小学校で外国語を学ぶのか』 小学館.2019